

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100666		
法人名	有限会社ほほえみグループホーム日陽		
事業所名	有限会社ほほえみグループホーム日陽		
所在地	愛知県名古屋港区南陽町西福田丸山21番地の1		
自己評価作成日	平成23年9月7日	評価結果市町村受理日	平成23年12月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング 9階		
訪問調査日	平成23年9月26日	評価確定日	平成23年10月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の方が知ってくださっている。施設行事で参加いただいている。日陽里が地域に回覧させていただいている。学童の参加がある。慰問があり、ボランティアもある。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム周辺は田んぼが多く、季節を感じる静かな環境である。広い庭には畑を作り、野菜や果物を入居者と一緒に育てている。無農薬の作物は食卓にあがり楽しんでいる。ホームでの生活には笑いがあり、季節を感じてもらえるような行事を企画したり、おやつ作りなど入居者と職員と一緒に楽しんでいる。入居者の高齢化と重度化が進む中、代表はホームは終の棲家であるの考えのもと、医療と介護の協働、連携を強化し、生活を支える医療と終末期医療体制を整えている。このことは本人や家族の不安を減らし、安心に繋がっている。また、地域の方に認知症について知ってもらおうと、講座を企画し提携医の協力のもと行った。職員と入居者は馴染みの関係ができ、最期まで寄り添うことで人が生きるということを学んでいる。</p>
---

### サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践できるよう心掛けている 会議を通じり汲んでいる 確認することなく、各人任せ 管理者と職員で共有しているが仕切れていない 常に実践を振り返る	理念は玄関に掲示されている。「ホームは終の棲家である」という考えのもと、入居者が安心して地域で暮らし続けることができるように、寄り添いながらその人らしい生活の実践に努めている。	地域密着型サービスを考慮した理念の作成は今年度に引き継がれる。全職員が理念を日々振り返りながら実践に繋げることができる今後の取り組みに期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	身体、認知度を考えると交流は難しい 事業所の催しに参加を呼びかけたり、地域行事に参加している ボラによるレクも行われている 高齢化が進み散歩等少なくなり、気がかりである	ホーム主催の秋祭りや餅つきなど、地元の方や子どもたちも参加して毎年好評を得ている。また、提携医の「認知症講座」や子ども110番も受けている。訪問時には、地元企業の新人研修で研修生が活動していた。来年、管理者が地元消防団に入団予定である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援の方法を活かしているか疑問に思う 焦らずこつこつと 出来ていない		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員に伝わり取り組んでいる 取り組み状況については末端まで届いてない 地域の方、他施設の意見はありがたい 具体的にサービス向上に活かされているか分かりません 報告や話し合いにより向上に活かしている	年6回、町内会役員、学識経験者、地域包括センター職員、他福祉施設職員、入居者家族、職員をメンバーに行っている。地域への参加と交流についての議題は、具体的に話し合い理解と支援を得ている。	前年度の目標達成計画は引き続き今年度の課題となっている。目標達成に向け、メンバーの支援を得ながら取り組んでいくことを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を取り合い協力関係を築いています 市町村担当者から連絡があり協力できていると思う	代表が月1回区役所を訪問し、保護係の担当者と打ち合わせをしている。また、パンフレットを置いてもらうなど協働関係を築いている。10月からスプリンクラーの工事を行い、職場環境改善のため助成制度の相談や助言も得ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の了承を得て拘束することもある 身の安全を考え、やったことが拘束と言われ考える機会になりました 転倒防止、転落防止の為に身体拘束とは理解できない 時によりホールの鍵を掛ける 身体拘束はしていない	身体拘束について勉強会を実施した。安全と自由な暮らしを支援する間で、職員は悩みながら実践している。入居者によってはベッド上での生活を常態化することを防ぐため、担当医師の指示を仰ぎ車いすの座位保持のため、胸に抑制帯を使用している。それにより、起床し日中は車いすで過ごしている。	全職員が拘束の弊害を認識し抑圧感の無い暮らしができるように、事例をあげて研修し、職員の思いや都合では無く、ホーム全体でさらに理解を深めることを期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は余りないが、防止に努めている 虐待するならばこの仕事をすべきでない 虐待はあってはならないので各人が自覚を持っていないとは思えない 身体に傷があった場合には原因を究明し話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	文書が配布された しっかり勉強していない 余り学ぶ機会が無い		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に十分説明しています 家族会議で提案し意見を聞いた 契約に関して良く分かりません		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議は開かれているが運営に反映しているか不明 家族会議を開き意見や要望を運営に反映しています 訪問された時に気軽に話していただけるよう心掛けている	年4回家族会を開いている。家族の希望より日曜日に変更し、多くの方が参加できるようにした。ホーム便りを毎月ユニット毎に発行し、写真も多く載せている。入居者が笑顔で楽しんでいる様子が見られ、家族アンケートには安心と感謝の声があがっていた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見は出し辛い 平等な立場で話し合うことが難しい 会議で介護についてしか話し合えない	月1回の合同会議やフロア会議で職員の意見聴取をしている。会議では不満や苦情は言い難い部分も多い。そのため、各フロアリーダーに意見や提案を聞いてもらい把握しているが、十分に意見が反映できるまでには至っていない。	職員が意見を出しやすく、話し合いができる環境づくりは、現場のケアに反映することに繋がることから今後の取り組みに期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を見ておられる 有給が取れる状況ではない されていない。パートは有給や休憩がない。労働条件について話を聞いてもらえない 有給の理由を詳細に書く必要があるのか、どうか		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できる機会は極めて少ない 今年は1回参加した 職員の研修機会が増えた		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流機会はない 連携医師の講義が聴けた 推進会議が開かれている 交流する機会を作っています		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話から聞き出し安心して暮らしていただけるよう努めています 職員の都合を優先しがち。内面に入り込むことが大事 個人差がありなかなか馴染めない方もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	意思表示できる人は少ないが、要望を聞き目標を持って頂いている 来所時に近況報告し情報交換する 関係作りに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族に同意を取り対応している どのようなことを願っているのか良く聞く 全体で話し合い対応している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なかなか来て頂けない家族が多い また来てと言われると疲れを忘れる 共に楽しんでいる		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支えたいと思う イベントなどで絆を密にしてもらっている 来て頂けない家族が多い		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ行けていない なかなか難しい	高齢化に伴い馴染みの場や人も少なくなっていく中、ホームで馴染みを作れるように支援している。月2回の地蔵参りや継続的なボランティアの訪問、担当マッサージ師等との馴染みの関係を大切にしている。顔馴染みの近所の喫茶店にも出かけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりを大切にしている 関わりが難しい 関わり支えあう関係は成り立たない方が殆ど 一緒に楽しむよう心掛けている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係は切れていると思う 退所されても一人で訪問して下さる方がいる		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切にしています 把握は困難。職員で話し合っています 充分に対応できていない	センター方式(情報収集の方法)を活用し、入居者の状況を総合的に捉え理解を深めるよう取り組んでいる。本人の言葉を引き出せるよう、入浴時や表情の良い時などに、思いや意向を聴く工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活等を把握するようにしている 家族に聞いたり資料を見ている 生活歴を見ている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録で把握している 日々の記録で把握していくようにしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りノートを活用したり電話で話したりしている 日々の記録を参考にしている 会議で意見交換している	毎月、計画に対して実際の状況はどうかの評価をして確認している。日々の気づきを各職員が報告し関係者が検討し、援助内容や目標の見直しを行っている。定期的や随時の会議を行い現状に即した計画となるよう努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	分担し記録している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態に応じた対応をしているがGHの枠を超えているのではないかと思う 会話から引き出すようにしている その時の状況に応じて柔軟に対応している		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る方には支援している イベントを通じ支援している 慰問を通じ支援されている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	信頼関係が築けている 連携通り行われている 訪問マッサージを取り入れている	希望があれば今までのかかりつけ医の受診が可能であるが、現在は全員が協力医を主治医としている。協力医は在宅医療に力を入れており訪問看護師と共にホームを支援している。往診や通院の際は、報告書に医師のコメントや服薬について記入してもらい、職員が確認している。総合病院との連携もあり、緊急時には協力医から情報提供がある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報の共有が出来ている なかなか出来ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	一介護者として出来ていない 常に聞けるようにしている 情報股間をしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意に沿うようにしていきたい 家族と事業所での対応方針の共有を図っている	入居時に看取り介護について説明を行い希望を聞いている。協力医の支援体制があり、重度化した場合は、医師が家族に説明を行い関係者が話し合う。看取りの経験があり、医師の指示を仰ぎながら対応している。実際ケアに当たる職員に対して、医師が講師となって行う研修を予定している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は受けていない		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行っている 地震、水害時の避難場所が定かでない	防災訓練、夜間想定避難訓練を行った。水害に対しての訓練では、車いすで運び上げるのは無理だと分かり、おぶひ紐などを考えている。来年、管理者が消防団に入ることから地域との協力が進むことが期待される。全職員の救急救命講習会への参加について検討している。備蓄品は水や食料などを用意している。	前年から水害に対する対策マニュアルの作成を進めたいとしており実現に期待される。また、全ての職員が確実に避難誘導ができるよう研修等の実施を期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	感情を出してしまう時がある 常に注意して対応している 気をつけている	一人ひとりを尊重してゆっくり話を聞き、本人に分かりやすく伝えるよう心がけている。誇りや人格を傷つけないようその人にあった呼び方や言葉遣いをしている。地域に向けた便りに、了解を得た上ではあるが名前入りの顔写真があったが、プライバシー保護の観点から名前を消すことにした。	個々の職員は人格の尊重に気を配っているが、徹底までには至っていない。勉強会などで話し合い、理解を深め誇りやプライバシーの確保に取り組んでいくことを期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけられないことがある		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務状況に左右される時がある リビングで過ごす方が殆ど、スタッフは見守りながら関わっている スタッフが少ないと希望に沿えないことがある		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	心掛けている 訪問理美容を活用している 充分出来ていない 介護しやすいようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の重度化により難しい 準備、片付けをして頂いている 全介助や歩行困難で準備や片付けは出来ていない	食事の準備等を手伝える人は限られているが下準備や片付けなどのできることを行っている。台所はオープンで調理中の音や香りなどが伝わってくる。七草や栗ご飯など季節感を大切に献立を考えたり、畑で取れた野菜を使って食事を楽しめるようにしている。おやつは原則手作りで畑で採れた果物も利用している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を取り把握している 自覚のない方に薦めることが難しい		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	指導が難しいです 出来なくなった方は見守りしている 介助で徹底している		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ、パットを減らす努力をしていない 排泄パターンを把握し支援している 自立支援より認知度の低下が早く難しい	チェック表で確認したり時間を見て排泄パターンの把握に努めることで、失敗を少なくし気持ちよく排泄ができるよう支援している。自分でトイレに行く人には、後から声をかけたり様子を見てプライドを傷つけないように確認をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼っている 毎日の体操、歩行訓練を行っている 食事の対応は出来ていない。腹部のマッサージをしている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る範囲で希望を取り入れている 入浴を楽しめるように対応している 毎日から隔日にし、無理強いしない	風呂は日曜日以外毎日あり、基本は2日に1度だが、希望があれば毎日入浴できる。入浴中は歌を歌ったり一人でゆっくりしたり、職員と一対一で話をしたりしている。嫌がる人には無理強いせず、その人に合わせて支援している。冬は重曹とクエン酸で暖まるよう工夫し、マッサージの時には足浴を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声掛けで気分を害さないよう心掛けている 自然な流れで行っている。睡眠障害がある方のリズムがつかめない昼寝をしたり室温をチェックしたりしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	同じ薬でも人によって効果が違うと理解した理解するよう努めている 誤薬の無いよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションで気分転換している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を体感できるよう心掛けている 体勢が充分ではないが出来るだけしている なかなか意に沿えないと思う 花見やバスツアー、家族との外食などで楽しみを持つ	気候の良い時には機会を見て散歩に出かけ、出たがらない人には畑を見に行こうなどとその気になるよう誘っている。広い畑や屋上を活用し、外気に触れる機会を設けている。季節毎の花見などの外出行事や年1度の日帰り旅行があり、個別の外出で食事や買い物をしている。喫茶店などへは外部の協力を得たり、家族の協力を得て支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを持つ楽しみを感じている方もいる 自己管理できる方には持ってもらっている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方がいる 電話や手紙がかかる方には支援している 手紙のやり取りは難しい 出来ない		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室は雑然としている 共有空間は出来るだけ綺麗にして気持ちよく過ごせるよう心掛けている 思い思いに過ごしてもらっている	居間の中央にテーブルを置き、窓際には大きなソファがありゆったりと寛ぐことができる。座卓の上には新聞や雑誌がある。夏場は南の窓はゴーヤのカーテンで日差しをさえぎっている。共有スペースはやや雑然としているが特に危険は無い。屋上にお地藏様を祭り、月2回住職を招いてお参りする。2階は犬、ウサギ、小鳥を飼っており入居者の癒しとなっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席で落ち着いて過ごす方が多い くつろげるよう気を配っている 余分な物があって居心地が悪い		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は居心地が悪い 居室で過ごせる方が少なくなっているのが寂しい 本人が使い慣れた物を家族と相談し置いている	居室は木製のベッドといすが備え付けだが、転落防止のためカーペットと布団の人もいる。タンスや収納ボックスなども持ち込まれている。壁には職員が描いた似顔絵や自分の予定が書き込まれたカレンダーが飾られている。掃除は本人ができるところを行い、後を職員が手伝っている。内側から施錠できプライバシーを守ることができる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(出来る事)はやっていただく様にしている 徘徊するのストレス解消になっている 創意工夫が必要		



### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370011666		
法人名	有限会社ほほえみグループホーム日陽		
事業所名	有限会社ほほえみグループホーム日陽		
所在地	愛知県名古屋港区南陽町西福田丸山21-1		
自己評価作成日	平成23年9月9日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然が残る地域なので、風景を見るだけで懐かしい気分になると思う。認知症の方には通した環境で田んぼの成長で四季を感じたり畑の野菜や果物で楽しんでいる。畑を手伝って頂いたり、新鮮野菜を召し上がっていただいたりしている</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有しているが、し切れていないところがある 地域密着型の理念になっていない		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が来られるよう行事を行っている ボランティアや慰問があり、入居者と知り合いの方もいる		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が相談に来たことがある 推進会議を通じ町内に少しずつ理解を得ていると思う 書面でスタッフに伝わり取り組んでいる 会議に出たことがないので分からない		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録を取り読んでもらっているが、全員が読んでいない。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会はあるが密な連絡は行っていない		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束になる、ならないを確認しケアを行っている 勉強の機会があるが正しく理解されていないのが残念 しないケアの実践に取り組んでいる		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	無いと言えず常に話し合う必要がある 勉強する機会があっても正しく理解されていない 手を出された場合、どう対応するか話し合っておきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	いきいき支援センターのアドバイスをいただき役立てたい。 NPO法人でなく、市町村に申し立てたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得していただいている。長期入院の場合、退所になるので不安な方もいる。ターミナルも病状によっては難しい		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等意見は皆が分かるよう記入している 家族会議の議事録を読み著名することになっている 敬老会を企画し様子を見ていただいている		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員意見を聞く機会はあるがなかなか反映されず前に進まない 伝達ノート記入し全員が見れるようになっている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子供の行事など考慮していただいております 働きやすい 個々に勉強し努力しても把握されていない		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会が増えている 研修に参加させていただいている 発表する場があると良い		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で交流する場を設けてある 他施設が行っているのを見たい		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意見を尊重し会議で話し合い、取り入れている 出来るだけ安心されるような関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報はあ。その要望にこたえられるようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切に見極めが出来ているか不安だが他のサービスも視野に入れ対応に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として尊敬し色々な知恵を頂きながら理解していっている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	よく来所される家族は絆が深いけど余り来られない方は難しい家族が参加できるような行事も考えている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのものは持ってきていただき、馴染みのある方と会って話しをする機会を援助したことがある		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ支えられるよう努力はしているが、個性が強い方は難しい 利用者同士不愉快にならないよう間に入り、気を配っている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方が来所されても居心地の良い環境を心掛けた こちらから積極的に行っているケースは少ない 相談された内容は支援している		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えられる方は数名だが希望等聞き把握に努めている 一人ひとり希望を大切にし個別対応で実現できるよう話し合い、検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れたが、未だ3名しか提出されていない。期限H23.3.31 一人ひとりの生活歴を把握し理解できるよう努める		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事を把握し現状を維持していけるよう支援している 出来る事を奪わないように努めている 一人ひとりの状況に合わせて把握するよう努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で話し合い意見を反映していく 本人や家族、またはマッサージ師、医師、看護師の方からのアドバイスを頂くようにしている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	努力しているが抜けてしまうことが多いと感じる 日々の記録が同じようなので気をつけたい スタッフの数が少ないなど毎日出来ているとは限らない 情報を共有しながら見直しをしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	我が家のようにリラックスして過ごせるよう新しい意見を出し合っていきたい 出来るだけ柔軟に支援できるようにしているが出来ていないときがある		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭りを開いたりして交流をしている 把握し切れていないのが現状である		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と週1の訪問看護もあるので納得が得られる 連携医に連絡ができ安心 訪問看護もあるので良い		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護職、訪問看護師に指示を仰いで対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換も指示がある場合のみ提供しているので、今後病院との関係作りをしていきたい 利用者が帰ってきやすい環境づくりをしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を視野に入れた取り組みはしているが早い段階からの話し合いは少ない		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員となると難しい		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した訓練や地震、水害の場合の話し合いを行っている 全職員となると難しい		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格を考慮し超え掛けを考える 言葉遣いや声のトーン、表情に気を配っている 人生の大先輩であると意識を常に持ち接している その人を知り一人ひとり違う対応をしている 認知症の種類でも変えている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望は出来るだけ着ているが認知症なので難しい 意見を引き出せるよう会話をする 言葉に出来なくも動作や表情で汲み取れるよう努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞いたりするが共同生活なのでどこまで聞くか難しい 時間はある程度決まっているがその人のペースは大切に して柔軟な対応をしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望のある方は化粧品を用意している 化粧道具があり時々利用していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、食事、片付け皆で取り組んでいる 畑の物を収穫したり、出来る所を手伝っていただいている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日チェックし必要ならば介助している 栄養バランスは好き嫌いがあるので献立を立てることが難しかった お粥対応もしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方のほうがケアが出来ない たまに口腔内チェックしたい		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を見ながら声掛け、誘導、支援しています 時間を見ながら援助している 自立している方以外援助している		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のある方には薬を処方していただいている 水分摂取、運動、マッサージを施行している 便秘のある方の排便時、量をチェックし医師と相談してる 市販食品で便秘改善を促したこともある		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴していただこうと考えると時間や希望にそぐわないことがある 調整している 希望を聞いたりお誘いの言葉掛けを変えたりしている 好きな時間には難しいが出来る限り希望に添えるよう努力しています		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れから昼寝をしていただくよう働きかけています 昼夜逆転しない程度、昼寝を促している 寝れないと思われている方の対応が難しい 体調を考えた対応をしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴、薬の副作用など把握するよう努めている 薬の副作用についてまだ、分からないことが多い 薬の袋に日付が記してあり誤薬の無いように努めている もっと勉強しなくてはならないと思う 処方箋を読み医師の指示を仰いでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事を考慮しながら行っていけるよう声掛け、見守りをしている 四季折々の行事やレクを企画し楽しんでいただいている 気分転換は余り出来ていないと思う 出来る限り実践されていると思う		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフ数によるがその日は難しい。出来る限り出かける機会を提供している 家族や、地域の方にもっと協力していただけると嬉しい 運動機能の低下もあり回数が減ったので声掛けなどで回数を増やしたい 個別外出や仲の良い方同士買い物、喫茶店へ出かけたり、季節に合った場所への全員外出も行っている		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	見守りにてレジで支払いをしていただくことを行っています 計算、管理が出来る方が殆どいらっしやらない		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方には支援している 出来る方には年賀状、暑中見舞いなど書いていただいている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事を取り入れ、ゆっくり過ごせるよう努めている 季節の物を飾って見て頂いている 季節の塗り絵や貼り絵を作っていただいている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	訴えが出来る方には提供できるが訴えが出来ない方には本当に出来ているか分からない 確執がありなかなか出来ない ソファの配置などで少数で過ごせる空間がある		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や好みの物をおいていただくようにしている 動物の好きな方にはぬいぐるみを置いていただいている 入所時に使い慣れた物を持ってきていただけるよう声掛けをしている		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立して頂けるよう出来る事を把握しやっていた できるようにしている 頼まれると手伝ってしまうので気をつけたい 床にテープを貼り歩きやすい工夫した		



(別紙4(2))

事業所名: 有限会社ほほえみグループホーム日陽

作成日: 平成23年11月7日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	個々の職員は人格の尊重に気を配っているが、徹底までには至っていない。勉強会などで話し合い、理解を深め誇りやプライバシーの確保に取り組んでいくことを期待したい。	人格の尊重や誇り、プライバシーの保護に努める。	人格の尊重、誇り、プライバシーに関する研修等、参加し会議で話し合い知識を広めたり、あるいは参考資料等利用し皆で取り組んでいく。	3ヶ月
2	4	前年度の目標達成計画は引き続き今年度の課題となっている。目標達成に向け、メンバーの支援を得ながら取り組んでいくことを期待したい。	スタッフは議事録を確認、取り組みの内容を理解することにする。	確認を徹底する。	1ヶ月
3	6	全職員が拘束の弊害を認識し威圧感の無い暮らしができるように、事例を挙げて研修し、職員の思いや都合では無く、ホーム全体でさらに理解を深めることを期待したい。	身体拘束を理解していく。	身体拘束に関する研修をとり行う。施設内で勉強会を開く。	6ヶ月
4	11	職員が意見を出しやすく、話し合いができる環境づくりは、現場のケアに反映することで、チームケアの充実を図ることに繋がることから今後の取り組みに期待したい。	マネジメントワークを活用し、スタッフに活かすようにする。	スタッフへアンケートや個別面談を行っていく。	6ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。